

代表質問

無所属の会



増田 好秀

〔総括質問者〕
長友 正徳

佐直 友樹

石原よしのり

秋本のり子

越川 雅史

中核市への移行

問 令和2年9月定例会において、市長は中核市への移行を目指すことを表明した。しかし、2年度から中核市へ移行した水戸市を参考にすると、民生行政や保健衛生行政等、法令の項目数で数えて、計2640項目

移行を目指すことを表明した。しかし、2年度から中核市へ移行した水戸市を参考にすると、民生行政や保健衛生行政等、法令の項目数で数えて、計2640項目

目もの事務が県から市に移譲される他、業務量の増加に伴う、本市の財政への影響については、年間で十数億円程度の負担増を見込んでいるとのことである。そこで、市は、既存の市民サービスの質や量を低下させることなく、どのように業務量や財政負担の増加に対応していくつもりなのか。

とが必要である。そのため、まずは、基幹収入である市税をはじめとした歳入の確保をしっかりと行っていくと共に、今後、県から移譲される事業の内容や事業費を精査した上で、既に同様の事業を市において行っている場合には、関連する事業の統合を図るなどして、効率的な財政運営を行っていくと考えている。

高齢者へのPCR検査

問 令和2年12月定例会に上程された一般会計補正予算には、市内の高齢者に対して、新型コロナウイルス感染症に係るPCR検査を実施するための経費が計上されているが、現在行われている国や県による検査は対象者が限定的であるため、市が独自に検査を行うことは評価できる。そこで、本事業の概要について問う。

象者は、3年4月1日現在で65歳以上となる者と、60歳以上で基礎疾患を有する者としており、合わせて約6万5千人を見込んでいる。実施方法は、市内23万所の公共施設を会場とし、受検者は、指定会場にて検査キット等を受け取り、自宅でだ液を採取した後、翌日、指定会場に提出することとなる。なお、本事業では、検査の場所や日時は指定されてはいるものの、その指定された場所や日時において、可能な限り多くの検査対象者にPCR検査を受けてもらいたいと考えている。

緑風会 第1



竹内 清海

鈴木 雅斗

青山ひろかず

〔総括質問者〕
荒木 詩郎

令和3年度当初予算

問 本市では、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度の当初予算編成では、歳入で37億円の減少、歳出で71億円の増加合わせて108億円の財源不足が見込まれる。そこで、新年度の予算編成における市の方針について問う。

再構築が必要であると考えている。そのため、3年度の当初予算編成に当たっては、マイナスイノベーションを各事業部門に依頼する等施策の優先順位を洗い直し、新たな視点で事業の見直しを行う等限られた財源を最大限に活用し、効果的な予算編成を行っていききたい。

第1庁舎の事務手続き

問 本市では、令和3年1月から第1庁舎が全面開庁するが、申請書の届出方法等市民が来庁した際の手続きの流れはどうなるのか。

また、ワンストップ窓口等これまでになかった新たな取り組みを行うことから、運用の逐次改善が必要と考えるが、市の認識を問う。

答 市民が来庁した際、総合受付の職員が用件等を確認した後、担当職員が窓口



窓口の在り方が大きく変わったワンストップ窓口

緑風会 第2



〔総括質問者〕
松井 努

石原みさ子

松永 鉄兵

中核市への移行

問 現在、新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るっており、本市においても、感染収束の兆しが見えない状況が続いている。このような状況を受けて、市長は、令和2年9月定例会において、中核市へと移

行し、自前の保健所を整備する方針を新たに打ち出した。市民の安心安全を守るため、自前の保健所を整備することは大変重要であると考えている。そこで、中核市への移行に向けた、村越市長の決意について問う。

答 これまで、コロナに関して市民から様々な問い合わせがあったが、保健所の所管が県であるため、陽性者の状況や治療状況といった情報を十分に開示することができなかった。加えて、今後、コロナ以外の同



中核市を目指す市川市（国府台方面より撮影）



左上：だ液によるPCR検査キット 右：PCR検査機

答 本市では、コロナの長期化が想定されることから、市民の生命と暮らしを守るための感染症対策を推進することに加え、新しい生活様式に適応した事務事業の

また、ワンストップ窓口等これまでになかった新たな取り組みを行うことから、運用の逐次改善が必要と考えるが、市の認識を問う。

答 市民が来庁した際、総合受付の職員が用件等を確認した後、担当職員が窓口

ついでには、今後も市民等の意見に耳を傾け、来庁者の利便性の向上を図りたい。

前々整備が必要があると判断し、中核市への移行を含めてしっかりと研究をした上で、市民へ説明を重ねていきいたいと考えている。